

夏季ジョイントセミナー

～急性期病院でのリハビリテーション医療が目指すべきこと～

平成21年7月25日(土)、埼玉医大国際医療センター 創立30周年記念講堂にて、「第5回 埼玉医科大学リハビリテーション科・相澤病院総合リハビリテーションセンター 夏季ジョイントセミナー」が開催されました。本セミナーは、リハビリテーションに関する新しい知識の習得と、地域におけるリハビリテーションの標準化の一環として、毎年開催されているものであり本年で5回目となります。

本年のテーマは「急性期病院でのリハビリテーション医療が目指すべきこと」と掲げ盛大に開催されました。セミナーには、埼玉医大・相澤病院・連携医療機関の医師・看護師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の方、総勢65名余りが参加されました。

基調講演では、埼玉医科大学病院リハビリテーション科 間嶋教授より「地域連携を超えて」と題した講演をいただきました。脳卒中地域連携クリニカルパス導入後、リハビリ対象患者の高齢化、透析患者の増加など、対象疾患が多様化しているとのことでした。



埼玉医科大学病院 リハビリテーション科
間嶋 満 教授



相澤病院 総合リハビリテーションセンター
理学療法士 鵜飼 正二

また、急性期病院から機械的に回復期リハ病棟へ転院するという安易な連携でなく、許容される在院日数の中で、可能な限り在宅復帰を目指し、それを達成するために地域の福祉との連携を強化しているとの内容でした。

演題発表は、埼玉医大から2演題、当院からは、鵜飼PTより「当院SCUにおける現状報告と今後の課題」、小口OTより「当院でのCI療法の取り組み」、古田島PTより「ラクナ梗塞患者の歩行パフォーマンス向上を目的としたBilateral movement trainingの試み」の3演題が発表され、双方の最近の取り組みについて活発な意見交換が行なわれました。

埼玉医大の症例発表では、1症例に対し医師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・看護師の各分野の視点から見た経過報告が行なわれ、チーム間での連携の強さを感じました。また、当院のCI療法の取組みに対しては、当院の前年度の発表を受け埼玉医大でも今年度より取り組んでいるとの報告を受け、本セミナーの内容が双方の実務業務内に反映されていると知り、改めて本セミナーの意義を実感できました。

今回、大勢の関連機関の方々に参加いただき、新しい知識を共有することができ有意義なセミナーになりました。ご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。



相澤病院 総合リハビリテーションセンター
作業療法士 小口 春恵

相澤病院 総合リハセンター 山下 博克